

介護職員初任者研修 カリキュラム

科目名：1. 職務の理解

時間数：6時間

ねらい（到達目標）

研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

指導の視点

1. 研修課程全体（130時間）の構成と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。
2. DVD教材により実際のサービス提供現場の具体的なイメージをつける。
3. 介護職のキャリアパスの概略を理解させる

内 容

1. 多様なサービスと介護職の仕事の理解

(1) 介護と介護保険制度の意義 **[1.5h]**

- ①介護保険制度の意義
- ②介護保険制度下での介護
- ③介護の意義

(2) 多彩なサービスと介護職の仕事内容・働く現場 **[1.5h]**

居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容の理解
DVDの視聴

2. キャリアパスの資格取得要件の理解 **[1.5h]**

- (1) 介護職の資格体系の見直し
- (2) キャリアパスの全体像
 - ①初任者研修修了段階
 - ②介護福祉士資格取得段階
 - ③認定介護福祉士段階

3. 事業所におけるOJT・Off-JT **[1.5h]**

- (1) 介護の理解と現任者研修
- (2) 介護現場で求められるOJT
- (3) 介護職のキャリアにつながるOJT
- (4) OJT・Off-JTの実際

ねらい（到達目標）

介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。

修了時の評価ポイント

1. 介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。
2. 虐待の定義、身体的拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

指導の視点

1. 具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。
2. 具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止、遅延化に資するケアへの理解を促す。
3. 利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。
4. 虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。

内 容

1. 人権と尊厳を支える介護

(1) 人権と尊厳の保持 **[1.0h]**

①個人としての尊厳

・人間の尊厳 ・日本における基本的人権 ・基本的人権と介護 / 医療

②権利擁護

・権利擁護とアドボカシー ・エンパワーメント ・エンパワーメントやアドボカシーが必要な人

③個人の尊厳と価値

・人間理解と尊厳の保持 ・介護における価値

④社会的役割の実感

・自己決定と尊厳 ・社会的役割の実感

(2) ICF (国際生活機能分類) **[1.0h]**

①介護分野における ICF

・アセスメントと ICF ・ ICF とアセスメントの視点—食事介護の場合

・ ICF と家事支援の観察ポイント

(3) QOL (生活の質) **[1.0h]**

①生活の質の捉え方

・生活の質と人間の尊厳

(4) ノーマライゼーション **[1.0h]**

①ノーマライゼーションの理念と実際

②ノーマライゼーションの歴史

(5) 虐待予防・身体拘束禁止 **[1.0h]**

①高齢者虐待防止法

②身体拘束禁止

(6) 個人の権利を守る制度の概要 **[1.0h]**

①個人情報保護法

2. 自立に向けた介護

(1) 自立支援 **【1.5h】**

- ①専門職として求められる「自立」と「自律」
- ②自立支援のための介護方法

(2) 介護予防 **【1.5h】**

- ①介護予防と健康長寿
- ②介護保険と介護予防
- ③介護予防と社会的入院

ねらい（到達目標）

1. 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。
2. 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

修了時の評価ポイント

1. 介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
2. 介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
3. 介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
4. 生活支援の場では出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
5. 介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

指導の視点

1. 可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。
2. 介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに1人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医務職と連携することが重要であると実感できるよう促す。

内容

1. 介護職の役割、専門職と多職種との連携【1.5h】

(1) 介護環境の特徴

- ①訪問介護サービス
- ②施設介護サービス
- ③地域包括ケア

(2) 介護の専門性

- ①重度化防止・遅延化の視点
- ②利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支援するための援助
- ③根拠のある介護
- ④事業所内のチーム、多職種から成るチーム
- ⑤医行為と医療的ケア

(3) 介護に関わる職種

- ①チームにおける役割分担
- ②介護に関わる職種の機能と役割

2. 介護職の職業倫理【1.5h】

- ①法令順守
- ②利用者の個人の尊厳と介入
- ③日本介護福祉士会の倫理綱領

3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント【1.5h】

- ①法令順守
- ②利用者の個人の尊厳と介入
- ③日本介護福祉士会の倫理綱領

(1) 介護における安全の確保

- ①介護における安全確保の重要性
- ②リスクマネジメント
- ③リスクマネジメントにおける重要な要素

(2) 事故予防、安全対策

- ①危険予知と事故予防
- ②事故発生時の対応
- ③具体的事例

(3) 緊急時に必要な知識と対応方法

- ①想定される事故
- ②応急手当（観察・対応の流れ）
- ③応急手当の実際
- ④一次救命処置の実際

(4) 感染症対策

- ①感染症の理解
- ②注意すべき感染症とその対応
- ③感染症の予防と対策

4. 介護職の安全【1.5h】

(1) 介護職の心身の健康管理

- ①介護職の健康管理
- ②介護職に起こりやすい健康障害
- ③腰痛予防
- ④感染症の予防
- ⑤ストレスマネジメント

ねらい（到達目標）

介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。

修了時の評価ポイント

1. 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
2. 介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。
例：税が財源の半分であること、利用者負担割合
3. ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
4. 高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見制度の目的、内容について列挙できる。
5. 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。

指導の視点

1. 介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。
2. 利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。

内 容

1. 介護保険制度等 [3.0h]

- (1) 介護保険制度創設の背景と目的・動行
- (2) 介護保険制度の仕組みと基礎的理解
- (3) 介護保険制度の財源、組織・団体の機能と役割
- (4) 医療保険制度の概要
- (5) 年金保険制度の概要

2. 医療との連携とリハビリテーション [3.0h]

- (1) 高齢者の服薬と留意点
 - ① 薬剤の服用とその観察
 - ② 薬剤の副作用
 - ③ 薬の種類に合わせた与薬の方法
 - ④ 医師や薬剤師との連携についての知識、管理
- (2) 経管栄養、吸引、吸入、洗腸など
 - ① 医療処置の目的と方法
 - ② 医療処置を行っている人の介護
- (3) 健康チェック
 - ① 健康チェックに必要な身体観察の視点と観察技術
 - ② 全身観察
 - ③ 体温・脈拍・血圧・呼吸の測定による観察の方法
 - ④ 他職種との連携のための観察やケアから得た情報の提供
- (4) 訪問看護
 - ① 訪問看護ステーション
 - ② 訪問看護と訪問介護の連携

- (5) リハビリテーション医療の意義と役割
 - ①リハビリテーション
 - ②リハビリテーション医療の流れ
 - ③リハビリテーション医療と介護の連携

- (6) リハビリテーション医療の過程

- (7) 訪問・通所・地域リハビリテーション

3. 障害者自立支援制度とその他の制度 **[3.0h]**

- (1) 制度創設の理念・背景と目的
 - ①わが国の法律で定める障害の捉え方
 - ②障害者（児）福祉の背景と動向
 - ③障害者雇用と就労状況

- (2) 制度の仕組みと基礎的理解
 - ①障害福祉サービスの仕組み
 - ②所得の保障

- (3) 個人の権利を守る制度の概要
 - ①基本理念
 - ②制度の概要や目的

ねらい（到達目標）

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

修了時の評価ポイント

1. 共感、受容、傾聴の態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
2. 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。
3. 言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点について列挙できる。
4. 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

指導の視点

1. 利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。
2. チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。

内 容

1. 介護におけるコミュニケーション 【3.0h】

- (1) コミュニケーションの意義と目的、役割
 - ① コミュニケーションの基本要素
 - ② コミュニケーションの目的と方法
 - ③ 相手のコミュニケーション能力への理解と配慮
- (2) コミュニケーションの手段と技法
 - ① 言語的コミュニケーション
 - ② 非言語的コミュニケーション
- (3) 利用者・家族への対応の基礎知識
 - ① カウンセリングマインド
 - ② 良いコミュニケーションと悪いコミュニケーション
- (4) 利用者・家族への対応の実際
 - ① 利用者、家族の思いを把握するコミュニケーション
 - ② 利用者との信頼関係を結ぶコミュニケーション
 - ③ 家族へのいたわりと励まし
- (5) 利用者の状況・状態に応じた対応
 - ① 聴覚障害者
 - ② 視覚障害者
 - ③ 盲ろう者
 - ④ 失語症に応じたコミュニケーション
 - ⑤ 構音障害に応じたコミュニケーション
 - ⑥ 認知症に応じたコミュニケーション
 - ⑦ 高次脳機能障害に応じたコミュニケーション

2. 介護におけるチームのコミュニケーション **[3.0h]**

(1) 記録による情報の共有化

- ①記録の意義・目的
- ②記録の種類
- ③記録の書き方
- ④記録に関わる法令

(2) 報告・連絡・相談

- ①報告・連絡・相談の意義・目的
- ②報告・連絡・相談の方法

(3) コミュニケーションを促す環境

- ①会議の種類と会議に臨む姿勢
- ②ケアカンファレンス
- ③サービス担当者会議
- ④事例研究・事例報告

ねらい（到達目標）

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

修了時の評価ポイント

1. 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。

例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等

2. 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起り、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等

指導の視点

高齢者に多い心身の変化、疾病等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。

内 容

1. 老化に伴うところとからだの変化と日常【1.5h】

(1) 老年期の発達と心身の変化の特徴

- ①加齢と老化の概念
- ②人格と尊厳
- ③老いの価値
- ④性役割と老年期の性

(2) 心身の機能の変化と日常生活への影響

- ①老化に伴う心身の機能の変化
- ②身体的変化
- ③心理的变化

2. 高齢者と健康

(1) 高齢者の疾病（老年症候群）と生活上の留意点（外科系）【1.5h】

- ①老年症候群とは
- ②老年症候群の早期発見
- ③運動器の機能向上
- ④口腔機能の改善
- ⑤低栄養の改善
- ⑥認知機能を高める
- ⑦尿失禁の改善

(2) 高齢者に多い病気と生活上の留意点（内科系）【3.0h】

- | | |
|------------|-----------|
| ①生活習慣病 | ⑥腎・泌尿器の病気 |
| ②脳神経系の病気 | ⑦骨や関節の病気 |
| ③循環器系の病気 | ⑧精神の病気 |
| ④呼吸器の病気 | ⑨眼と耳の病気 |
| ⑤肝臓・胆道系の病気 | ⑩皮膚の病気 |

ねらい（到達目標）

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

修了時の評価ポイント

1. 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
2. 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
3. 認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
4. 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
5. 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
6. 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。
例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。
7. 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
8. 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。

指導の視点

1. 認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。
2. 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。

内 容

1. 認知症を取り巻く状況【1.5h】

- ①認知症ケアの理念
- ②パーソンセンタードケア
- ③認知症ケアの視点

2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理【1.5h】

(1) 認知症の概念と原因疾患・病態

- ①認知症の概念
- ②認知症の中核症状
- ③認知症の原因疾患の診断
- ④認知症の治療
- ⑤認知症と間違えられやすい症状
- ⑥認知症についての最近の話題

(2) 原因疾患別ケアのポイントと健康管理

- ①長年にわたる食生活の偏り
- ②脱水
- ③便秘
- ④低栄養
- ⑤運動量の低下
- ⑥廃用症候群（生活不活発病）
- ⑦口腔ケア

3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活【1.5h】

(1) 生活障害、心理・行動の特徴

- ①認知症の人の心の内
- ②周辺症状（BPSD）にみる認知症の人の思い
- ③原因疾患による認知症症状の違い

(2) 利用者への対応

- ①ケアのあり方と周辺症状
- ②認知症症状の背景を読み解く
- ③非薬物療法

4. 家族への支援【1.5h】

(1) 家族との関わり方

- ①認知症の受容過程での援助
- ②介護負担の軽減（レスパイトケア）

ねらい（到達目標）

障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

修了時の評価ポイント

1. 障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
2. 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

指導の視点

1. 介護において障害の概念と ICF を理解しておくことの必要性の理解を促す。
2. 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。

内容

1. 障害の基礎的理解【0.5h】

- (1) 障害の概念と ICF (障害者福祉の基本理念)
 - ① 障害者福祉の基本理念
 - ② 障害の概念と国際生活機能分類 (ICF)

2. 障害の医学的側面の基礎的知識【2.0h】

- (1) 肢体不自由 (身体障害)
 - ① 肢体不自由の代表的な病気とその障害像
 - ② 生活援助のポイント
 - ③ 廃用症候群 (生活不活発病)
 - ④ 障害受容のプロセスを踏まえた対応
- (2) 内部障害
 - ① 内部障害の代表的な疾患・障害
 - ② 生活援助のポイント
 - ③ その他の疾患・障害
- (3) 視覚障害・聴覚障害
 - ① 視覚障害
 - ② 聴覚障害
 - ③ 平衡機能障害
- (4) 音声・言語・咀嚼機能障害
 - ① 失語症
 - ② 構音障害、発声障害
 - ③ 咀嚼・嚥下機能障害
- (5) 精神障害
 - ① 精神医学的な分類図式
 - ② 分類図式を理解する際の留意点
- (6) 統合失調症
 - ① 統合失調症の3つの類型
 - ② 類型それぞれの中心となる症状、経過

(7) 躁うつ病等

- ①気分障害の類型
- ②高齢の患者さんの初発症状、経過の特徴

(8) 神経症性障害（神経症）

- ①神経症の類型
- ②一般的な対応

(9) アルコール依存症

- ①アルコール依存症の定義
- ②アルコール依存症に伴う身体的、精神的、社会的問題

(10) 知的障害、発達障害、ダウン症

- ①各障害の特徴
- ②日常生活を支援するポイント

(11) 高次脳機能障害

- ①原因疾患
- ②症状
- ③診断基準
- ④評価方法
- ⑤対応方法

3. 家族の心理の理解、かかわり支援の理解 [0.5h]

- ①介護する家族の遭遇するストレス
- ②障害の理解と受容支援
- ③介護負担の軽減

ねらい（到達目標）

1. 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
2. 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

修了時の評価ポイント

1. 主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
2. 要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法・留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
3. 利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
4. 人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
5. 人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
6. 家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
7. 装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
8. 体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
9. 食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
10. 入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
11. 排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
12. 睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
13. ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

指導の視点

1. 介護実践に必要なころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。
2. サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。
3. 例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。
4. 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。

内容

【基本知識の学習】

1. 介護の基本的な考え方【1.0h】

- ①理論に基づいた介護
- ②法的根拠に基づく介護

2. 介護に関するころとからだのしくみの基礎的理解【1.0h】

- (1) 学習と記憶に関する基礎知識
 - ①学習の諸理論
 - ②記憶のメカニズム
 - ③海馬と扁桃体

(2) 感情と意欲に関する基礎知識

- ①感情とそれに類似する概念
- ②思考と認知の概念
- ③体力と意欲（やる気）の関係

(3) 自己概念と生きがい

- ①基本的欲求と自己有用感
- ②障害を持った人が今できていることを認める
- ③精神的な拠りどころの必要性
- ④生きがいと意欲

(4) 老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因

- ①人間としての存在価値の喪失感
- ②障害受容のプロセス
- ③自我の再生支援
- ④行動変容支援と動機づけ

3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 [3.0h]

(1) 健康チェックとバイタルサイン

- ①基本的な健康チェックのしかた
- ②バイタルサインのとり方
- ③正常値とその評価

(2) 骨・関節・筋肉に関する基礎知識

- ①骨
- ②関節
- ③筋肉

(3) 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識

- ①神経系の分類と機能

(4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識

- ①血液と免疫系
- ②心血管系
- ③呼吸器系
- ④消化器系
- ⑤腎・泌尿器系
- ⑥内分泌系
- ⑦生殖器
- ⑧皮膚

【生活支援技術の講義・演習・実習】

4. 生活と支援技術 [2.0h]

(1) 生活と家事

- ①人の暮らし（生活の捉え方）
- ②衣食住の環境整備

(2) 家事援助の基礎知識と生活支援

- ①個別性の尊重、個人の価値観・生活歴
- ②信頼関係の形成
- ③自立支援

5. 快適な居住環境整備と介護 [3.0h]

(1) 快適な居住環境に関する基礎知識

- ①人と住まい
- ②高齢者に必要な住まいの性能

(2) 介護保険による住宅改修

- ①住宅改修サービスの目的
- ②介護保険による住宅改修の概要

- (3) 福祉用具に関する基礎知識
 - ①福祉用具の概念
 - ②代表的な福祉用具の理解
 - ③介護保険制度上の福祉用具貸与・購入費の支給

6. 整容に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護（演習を実施）【7.0h】

- (1) 整容に関する基礎知識
 - ①整容行動とは
 - ②具体的な整容行動（爪切り、口腔ケア、衣類の着脱、整髪、洗面、化粧）
- (2) 整容の支援技術
 - ①爪切り
 - ②口腔ケア
 - ③身体状況に合わせた衣類の着脱

7. 移動に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護（演習を実施）【11.0h】

- (1) 移動・移乗に関する基礎知識
 - ①移動・移乗介護の意義・目的
 - ②残存能力の活用・自立支援
 - ③利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法の基礎であるボディメカニクス
- (2) 移動・移乗のための用具と活用方法
 - ①移動・移乗に関する福祉用具の種類
 - ②各福祉用具の特徴
 - ③福祉用具の適切な活用方法
- (3) 負担の少ない移動・移乗と支援方法
 - ①活動の低下が及ぼすところとからだへの影響
 - ②各介助（体位変換、移乗・歩行、車いす）の具体的な方法
- (4) 移動と社会参加の留意点と支援
 - ①日常生活の活性化
 - ②外出の介助
 - ③社会参加の意味

8. 食事に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護（演習を実施）【7.0h】

- (1) 食事に関する基礎知識
 - ①私たちの生活における食事の意味
 - ②食事摂取のしくみ
 - ③加齢や障害に伴うさまざまな症状
- (2) 食事環境の整備と用具の活用方法
 - ①食事に関連した観察のポイント
 - ②適切な食事環境
- (3) 楽しい食事を阻害する要因と支援方法
 - ①さまざまな状態像に合わせた介護方法
 - ②誤嚥した場合の対応
 - ③食事介護における観察ポイントと記録
- (4) 食事と社会参加の留意点と支援
 - ①食事介護の社会的側面
 - ②口腔機能

9. 入浴と清潔保持に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護（演習を実施）【7.0h】

- (1) 入浴と清潔保持に関する基礎知識
 - ①入浴の介護
 - ②清拭の介護
- (2) 入浴と整容の用具の活用方法
 - ①シャワー浴・一般浴（片マヒ利用者）の介助
 - ②清拭の介助
 - ③手浴・足浴の介助
 - ④洗髪・ひげ剃りの介助
- (3) 楽しい入浴を阻害する要因と支援方法
 - ①入浴に際したリスクと対応
 - ②認知症高齢者の入浴に際したリスクと対応

10. 排泄に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護（演習を実施）【8.0h】

- (1) 排泄に関する基礎知識
 - ①排泄の意義
 - ②排泄のメカニズム
 - ③排泄障害
 - ④失禁の種類
- (2) 排泄環境の整備と用具の活用方法
 - ①排泄しやすい環境整備
 - ②排泄用具の種類と特徴
 - ③オムツの弊害
- (3) 爽快な排泄を阻害する要因と支援方法
 - ①排泄障害が日常生活に及ぼす影響
 - ②排泄を支援する際の基本原則
 - ③排泄支援の実際

11. 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護【1.5h】

- (1) 睡眠に関する基礎知識
 - ①睡眠の基礎知識
 - ②睡眠の役割
 - ③睡眠障害の種類
- (2) 睡眠環境と用具の活用方法
 - ①寝室の環境整備
 - ②寝具の種類と選び方
 - ③こちよく眠るための生活
- (3) 快い睡眠を阻害する要因と支援方法
 - ①睡眠を阻害する要因
 - ②心身の苦痛の軽減
 - ③安楽な体位
 - ④褥瘡予防

12. 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護【1.5h】

(1) 終末期に関する基礎知識

- ①終末期ケアとは
- ②住み慣れた場所で最期を迎えるための終末期ケア

(2) 生から死への過程とところの理解

- ①高齢者の死に至るパターンとケアの特徴
- ②終末期の身体的状態と苦痛を和らげるケア
- ③終末期の心理状態

(3) 苦痛の少ない死への支援と他職種との連携

- ①ケアプランに基づいた介護
- ②介護従事者の役割と他職種との連携
- ③全身状態の観察
- ④誤嚥の防止と嚥下状態の観察
- ⑤心理状態の観察
- ⑥介護従事者の基本的態度

【生活支援技術演習】

13. 介護過程の基礎的理解【3.0h】

- ①科学的思考と介護過程
- ②介護過程の展開に必要な構成要素

14. 総合生活支援技術演習【7.0h】

2事例を展開

- ①衣服の着脱の介助、②移動の介助、③食事の介助、④排泄の介助、⑤入浴の介助の5つの場面について日常生活の支援を行う場合、具体的にどのような介護方法で行えばよいのか。また、それはなぜそのような介助が必要なのか。その根拠について考える。

【施設サービス実習】【6.0h】

介護技術を中心とする援助能力を高めると共に、利用者とのコミュニケーションの実践を行う

【通所サービス実習】【6.0h】

在宅サービス提供現場の見学を通して、そのサービス及び機関の役割・機能を理解する。

ねらい（到達目標）

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

指導の視点

1. 在宅、施設のいずれの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。
2. 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。
3. 終了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。
4. 最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適用等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。

内 容

1. 振り返り 【3.5h】

研修全体を振り返り、研修を通じて学んだこと、今後継続して学習すべきことについて振り返ります。

2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 【0.5h】

- ① 継続的に学ぶこと